

小松橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋
 架設年次：昭和5年1月
 所在地：江東区猿江二丁目から
 扇橋一丁目間小名木川に架かる
 橋長：55.9m
 幅員：13.8m



現在の様子



現在の様子



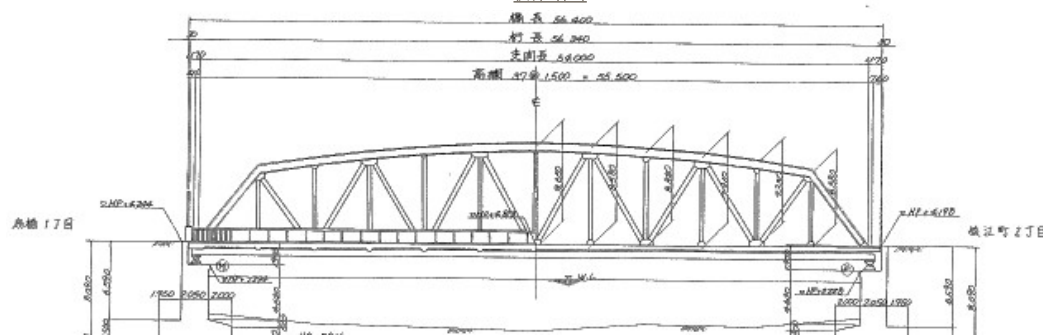
昭和53年撮影

小松橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

ワーレントラス（トラス=構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。

側面図



景観整備工事について

昭和64年に「出会い」をテーマに景観整備工事を実施しました。親柱は、二人が向き合う出会いがモチーフとなっています。橋名塔は、二つの「水」の会合う「波」をモチーフとし、ステンレスプレートで向き合う姿が表現されています。高欄とデザインパネルは行き交う船をモチーフにしており、水上の出会いが表現されています。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

震災復興橋梁について

大正12年（1923年）9月1日の午前11時58分、神奈川県西部（または相模湾北西部）を震源とするマグニチュード7.9の大地震（大正関東地震）が発生しました。
 震災前、東京市の橋の大部分は木橋で、多くの橋が被害を受けました。震災前後から昭和5年（1930年）にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。
 東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区域にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。
 一部の橋は、改修や増設を重ねながら、現在も都市の交通を支えています。



小松橋の概要
 橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋
 橋長：55.9m
 橋幅員：13.8m
 架設年月：昭和5年1月

